

1 年次

海外提携フライトスクールが実施する
英会話能力確認試験合格後、渡米までの期間、
FAA 自家用ライセンス取得のための
学科試験対策や英語学習を各自で実施
(訓練コースごとに特別授業等を実施する場合があります)

2 年次

6-8月
先進工学部
ハイブリッド留学®

3年次

4年次

3月
学士号取得

卒業後

POINT
卒業後、何年間かお金を貯めてからでも可能！経済状況にあわせて段階的に取得もできます

事業用取得後、追加飛行時間、各試験を経て飛行教官(操縦教育証明)もめざせます

固定翼

2



12.

★飛行訓練参加に伴う
推奨英語能力レベル
TOEIC®(L&R)500点以上

米国提携
フライトスクール
による英会話能力
確認試験

★飛行訓練参加に伴う
推奨英語能力レベル
TOEIC®(L&R)600点以上

POINT
フライト体験後に、
今後の進路を決定できる！

飛行操縦体験（任意参加）
実際に飛行教官が操縦する飛行機やヘリコプターに同乗し、フライトを体験。
まずは、空を飛ぶということを身体で感じます。

固定翼の注意事項

※1 飛行訓練には飛行訓練装置による訓練時間を含みます。
また、各種資格取得の課程で学科教育があります。

※2 3年次までの成績、飛行訓練状況等を踏まえ、許可を得た者のみ選択可能。

固定翼か回転翼、

12_



米国提携
フライトスクール
による英会話能力
確認試験

60

まずはFAA自家用（タービン）
免許の取得をめざそう！

アメリカでの飛行訓練

アメリカの提携フライトスクールにて
FAA自家用(タービン)を取得
飛行訓練^{※3}：TOTALピストン**56時間**＋タービン**10時間**
訓練費：US\$ 43,000

POINT
FAA自家用は、日本の自家用
ライセンスに書き換え可（た
だし、学科試験（法規のみ）
の合格が必要）

アメリカでの飛行訓練
アメリカの提携フライトスクールにて
日米一貫教育課程入学資格を取得
(FAA自家用免許はタービン飛行後に取得)
飛行訓練※3: **TOTAL**ピストン(機長時間付け)**35時間**
訓練費: **US\$ 16,000**

00

POINT
日本と海外の空を経験
することで、気候・環境
の違いも体感

POINT
卒業後、何年間かお金を貯めてからでも可能! 経済状況にあわせて段階的に取得もできます

4 1 1

国内提携校での飛行訓練※3
第一航空（8ヶ月間／八尾空港）にて**JCAB事業用（タービン）**を取得
訓練費：¥7,766,000(税込)

航空業界への就活

自治体、消防・警察、ヘリコプター運営会社、
飛行教官(要追加飛行経験+資格試験合格)等

POINT
事業用取得後、追加飛行時間、各試験を経て飛行教官（操縦教育証明）もめざせます

本コース申込に際しての重要注意事項（必要条件）

固定翼

本田航空への入学に際し、入学試験（書類審査、適性検査等）があります。

- 本田航空入学試験出願時までに、TOEIC Listening & Reading Test 400点以上又は公益財団法人日本英語検定協会実用英語技能検定準2級以上の英語能力を有していること。
- 本田航空入学試験出願時までに、航空身体検査証明第1種相当の基準に適合する見込みがあること。（本田航空指定医療機関での受診が必要）
- 航空特殊無線技士以上の資格取得および航空従事者等学科試験（自家用操縦士の「法規」科目）の合格が入学後に必要です。
- 操縦訓練の実施に伴い本田航空への入学および契約手続きが必要です。

回轉翼

- 航空特殊無線技士以上の資格取得および航空従事者等学科試験（自家用操縦士の「法規」科目）の合格が入学時までに必要です。
- 操縦訓練の実施に際し第一航空への入学および契約手続きが必要です。
- ※訓練期間・期間中はあくまでも個人の技量等により変動する場合があります。また、記載の飛行訓練時間は、あくまでも平均的な訓練時間です。訓練時間は修得状況により個人差があり、追加費用が発生する場合があります。
- ※留学時の米国や米国連邦航空局、提携フライトスクールおよび海外情勢等の事情により実施ができない場合があります。※
- ※渡航に際し、ビザの取得ができない場合は本コースで訓練を受けることができません。※
- ※渡航の際に必要なとびざ申請において、操縦訓練費用(総額)や滞在中に必要な生活費など、米国滞在中のあらゆる費用を賄う充分な資金があることを証明する預金残高証明書の提出が必要です。
- ※渡航(米国国内での操縦訓練)に際し、FAA Medical Certificates(3rd class以上)の取得が必要で、診断書の取得ができない場合は本コースで訓練を受けることができません。※
- ※渡航(米国国内での操縦訓練)に際し、Flight Training Security Program(FTSP)にフライトトレーニングの許可申請が必要で、飛行許可が下りない場合は本コースで訓練を受けることができません。※
- ※海外提携のフライトスクール入校に際し、英語の能力証明書等は必要かもしれませんが、海外提携フライトスクールが実施する英会話能力確認試験に合格する必要があります。
- また、資格取得のための飛行訓練および各種試験(筆記、口試、実技、無線等)はすべて英語で行われ、かつ、渡航前の事前教育も英語が主となるなど、相当の英語力が求められるため、
- 渡航前より推奨英語能力レベル★を設定しています。
- ※記載の飛行訓練内容、飛行訓練期間・期間および訓練費は、2024年5月1日時点のものです。今後、諸状況により予告なしに変更、追加することがあります。
- ※その他、渡航先の入国条件がクリアにならない場合には、本コースは継続できません。
- ※そのような場合、国内ライセンスコースを活用しての資格取得をめざすことになります。これに伴い訓練費用は増額となります。

取得できる免許・資格



- FAAおよびJCAB自家用資格
■JCAB事業用・多発限定変更・
計器飛行証明・飛行教官（操縦教育証明）資格



- FAAおよびJCAB自家用タービン資格
■JCAB事業用・飛行教官（操縦教育証明）タービン資格